

<資料>

新産地報告 (3)

上野 勝典* 上野 由貴枝*

New localities of some plants in Nagano Prefecture (3)

Katsunori UENO and Yukie UENO

長野県産の植物、特にシダ植物以外の維管束植物の分布上興味深い産地が判明した植物について本誌第37, 38号に報告した(上野・上野2004, 2005)が、その後新たに見出した植物をここに報告する。

ジロボウエンゴサク (ケマンソウ科) *Corydalis decumbens* 写真1



写真1 ジロボウエンゴサク

2005年5月8日 松本市 NAC142739

コナラとカラマツが混生する湿った林下に数m四方の領域にまとまって生育しているのを見つけた。この周辺ではほとんどヤマエンゴサクしか見られず、この時期はすでに花が終りの時期であったが、本種はちょうど満開の時期となっていた。ジロボウエンゴサクは花が小型で花茎に2個程度しかつけない。玉状の根茎から花茎を複数伸ばし、ヤマエンゴサクのように根出葉は鱗片様に退化することはない。長野県では過去に天龍村での記録があったが、その後記録がなく、長野県レッドデータブックでは絶滅種とされた。暖地性の植物で、太平洋側では林道脇などのやや湿ったと

ころで比較的良好に見かける。現地では帰化植物も少なく自然な環境に自生していた。

ムラサキニガナ (キク科) *Lactuca sororia* 写真2



写真2 ムラサキニガナ

2004年8月13日 波田町前淵 800m

溪流脇のスギ林下に花をつけた一株だけが生育しているのを見つけた。すでに花の時期は終りに近づいており、2, 3の花が認められたが、ほとんど実になっていた。花は小さい紫色をしており、下向きに垂れ下がるように咲く。葉は広い披針形でヤマニガナやミヤマアキノノゲシにやや似ている。暖地の植物で、長野県では大桑村や南木曾町など木曾谷南部での記録がある。神奈川県では普通であり(神奈川 2001)、以前、三浦半島で見かけたことがある。県絶滅危惧II類。

* 上野勝典・上野由貴枝 〒399-0011 松本市寿北2-2-38

ミヤマツチトリモチ (ハマウツボ科) *Balanophora nipponica*

2004年8月14日 松本市白骨(旧安曇村) 1550m

林道沿いの急斜面に生育していたイタヤカエデの根元に寄生して、花を咲かせているのを見かけた。「安曇村誌」および「長野県植物誌」に安曇村の記録が無かったのでここに報告する。比較的標高の高い亜高山の林下で、広葉樹に寄生するとされる。県準絶滅危惧。

アケボノシュスラン (ラン科) *Goodyera foliosa* var. *maximowicziana*

2004年11月20日 塩尻市日出塩 800m

奈良井川沿いのスギ林下で、群生しているのを見つけた。本種は秋に開花するが、すでに花期は過ぎていた。以前、堀金村の北アルプス登山口や上高地で見かけたことがある。県絶滅危惧Ⅱ類。

謝 辞

本報告の作成にあたり、現地の確認と貴重な助言をいただいた小山泰弘氏ならびに大塚孝一氏には、心より感謝いたします。

引用文献

- 安曇村誌編纂委員会 (1998) 安曇村誌第1巻自然
上野勝典・上野由貴枝 (2004) 新産地報告. 長野県植物研究会誌, 37: 49-50.
上野勝典・上野由貴枝 (2005) 新産地報告 (2). 長野県植物研究会誌, 38: 137-138.
神奈川県植物調査会編 (2001) 神奈川県植物誌. 神奈川県立生命の星・地球博物館
塩尻市誌編纂委員会 (1991) 塩尻市誌 第一巻 自然
清水建美監修 (1997) 長野県植物誌. 信濃毎日新聞社
長野県 (2002) 長野県版レッドデータブック 維管束植物編